

2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月7日
東

上場会社名 セガサミーホールディングス株式会社 上場取引所
コード番号 6460 URL <https://www.segasammy.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長グループCEO (氏名) 里見 治紀
問合せ先責任者 (役職名) 財務経理本部長 (氏名) 石橋 知明 (TEL) 03-6864-2400
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績 (2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	95,028	17.3	2,384	—	3,612	—	2,169	—
2026年3月期第1四半期	81,026	△22.7	△519	—	△2,124	—	△3,387	—

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 5,760百万円(98.8%) 2026年3月期第1四半期 2,897百万円(△92.6%)

(参考) 調整後EBITDA 2027年3月期第1四半期 7,847百万円(437.0%) 2026年3月期第1四半期 1,461百万円(△94.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	10.70	—
2026年3月期第1四半期	△15.89	—

(注) 2027年3月期第1四半期においては、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を記載しておりません。

2026年3月期第1四半期においては、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	610,342	355,323	58.2
2026年3月期	627,388	354,967	56.5

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 355,290百万円 2026年3月期 354,693百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	27.00	—	28.00	55.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期(予想)	—	27.00	—	28.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想 (2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	510,000	4.6	44,500	△5.6	47,500	△12.4	32,500	—	160.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2027年3月期1Q	213,545,376株	2026年3月期	221,229,476株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	10,565,154株	2026年3月期	18,564,547株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2027年3月期1Q	202,754,913株	2026年3月期1Q	213,201,536株

(注) 当社は、役員報酬BIP信託及び株式付与ESOP信託を導入しており、当該信託が保有する当社株式を期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数に含めております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、2026年8月7日に機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算プレゼンテーション資料については事前にTDnet及び当社ホームページに掲載するほか、決算説明会の模様及び説明内容(映像並びに音声)については、当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	8
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(表示方法の変更)	10
(セグメント情報等)	11
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

■全体ハイライト

当第1四半期連結累計期間においては、売上高95,028百万円、営業利益2,384百万円、調整後EBITDA7,847百万円を計上するスタートとなりました。大型新作タイトルの投入が第3四半期以降に偏重する中、各セグメントにおいて売上高は概ね想定どおり、営業利益・調整後EBITDAは想定を上回りました。

詳細につきましては事業別ハイライトをご参照ください。

■事業別ハイライト

エンタテインメントコンテンツ事業

コンシューマ分野においては、フルゲームのリピート販売が想定どおりとなり、Rovio Entertainment Ltdやトランスメディア展開に伴うライセンス収入も概ね想定どおりとなりました。映像分野では、ソニック映画第1、2弾の配分収入や、アニメーション作品の配信許諾に係る収入を計上いたしました。AM&TOY分野においては、AM機器販売の好調により想定を上回る滑り出しとなりました。

2027年3月期の主力フルゲームタイトルについては、第3四半期以降、順次投入する予定です。これに先立ち、5月及び6月に開催されたゲーム関連イベント等において、『STRANGER THAN HEAVEN』（2027年1月15日発売）、『ペルソナ4 リバイバル』（2027年2月18日発売）等の情報発信及びプロモーションを実施いたしました。ウィッシュリスト登録数や関連動画視聴数等の先行指標は好調に推移しており、引き続き発売に向けた期待感を醸成し、販売の最大化を図ってまいります。

さらに、トランスメディア戦略のもと、主力IPをはじめとする保有IPのグローバルな多面展開を推進し、IP価値の向上及びライセンス収入のさらなる拡大を図ってまいります。

映像分野では、4月に公開された劇場版『名探偵コナン ハイウェイの墮天使』が興行収入136億円を超えるヒット作となっており、同作品の配分収入に加え、引き続きソニック映画第1、2弾の配分収入を見込んでおります。

遊技機事業

当第1四半期連結累計期間においては、『スマスロ ビッグドリーム THE GOLDEN PUSHER』の販売に加え、2026年3月期に発売した『スマスロ 化物語』、『スマスロ 甲鉄城のカバネリ 海門（うなと）決戦』の追加販売も寄与し、好調な滑り出しとなりました。また、2026年3月よりパチスロにおいてユニット販売を開始しておりますが、当第1四半期においてはパチスロの販売台数の約20%がユニット販売となりました。

今後につきましては、人気IP及び自社IPを活用した複数の新作タイトルの投入を進めてまいります。第2四半期においては、パチスロでは『スマスロ リコリス・リコイル』（2026年9月）、パチンコでは『e 七つの大罪3』（2026年8月）等を投入し、第3四半期においては、パチスロでは『スマスロ 獣王』（2026年10月）等を投入いたします。また、『スマスロ 甲鉄城のカバネリ 海門（うなと）決戦』につきましては、引き続き追加販売を実施いたします。

なお、依然として遊技機業界全体において、パチスロの許認可取得は低水準で推移しておりますが、当グループにおいては、足元では着実に許認可の取得が進んでおります。計画しているタイトルの許認可取得を目指すとともに、妥協のない開発を通じてユーザーの期待に応える製品を投入できるよう引き続き努めてまいります。

ゲーミング事業

当第1四半期連結累計期間においては、既存ビジネス領域であるゲーミング機器販売が堅調に推移したことから、想定をやや上回る滑り出しとなりました。ゲーミング機器販売においては、引き続き『Railroad RICHES™』及び『Super Burst™』等の主力シリーズを中心に販売が伸びました。

一方、2026年3月期に買収したGAN Limited（以下、「GAN」）及びStakelogic B.V.（以下、「Stakelogic」）の業績取込の影響により、前年同期比では売上高は増収、営業損失は拡大いたしました。

『パラダイスシティ』については、引き続き好調な日本人VIP客及びMass客が牽引し、カジノ売上は堅調に推移いたしました。なお、新たに開業したホテルの一過性初期費用が発生したことや、税還付額が減少したこと等に伴い、持分法取込額は前年同期比で減少したものの、想定どおりの利益貢献となりました。

※GAN、Stakelogic及びPARADISE SEGASAMMY Co., Ltd. は12月決算のため3ヶ月遅れで計上

今後につきましては、ゲーミング事業で掲げる「オムニチャネル戦略」の実現に向けた基盤構築を進めてまいります。ゲーミング機器販売においては、北米市場を中心に好調な既存タイトルの販売強化に加え、競争力の高い新規タイトルの投入を進めてまいります。また、中長期的な安定収益基盤の構築に向けたリース販売強化のほか、新規顧客開拓や、新たなライセンスの取得等にも取り組んでまいります。GAN及びStakelogicにおいては、事業再生プログラムを推進しております。主要な取り組みとして、GANについては、ビジネス成長の基盤となる新プラットフォームV2への移行を進め、事業の効率化と拡大を図ってまいります。Stakelogicについては、不採算事業からの撤退やラインナップの絞り込みを行う一方、実績のあるゲーミング機器IPのオンライン移植を進め、新たな収益基盤を構築してまいります。

その他詳細につきましては、2027年3月期第1四半期決算プレゼンテーションをご参照ください。

<https://www.segasammy.co.jp/ja/ir/library/>

【2027年3月期第1四半期】

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	81,026	95,028	14,002	17.3
営業利益又は営業損失(△)	△519	2,384	2,904	—
経常利益又は経常損失(△)	△2,124	3,612	5,737	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失(△)	△3,387	2,169	5,557	—
調整後EBITDA(注)	1,461	7,847	6,386	437.0
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失(△)	円 △15.89	円 10.70	円 26.59	% —

(注) 調整後EBITDA：経常利益＋支払利息＋減価償却費±調整項目※

※調整項目	・＋事業上の特別利益 ・△事業上の特別損失（減損損失、タイトル評価減等） ・△非支配株主に帰属する当期純利益 ・＋M&Aに伴うのれん/商標権等の償却費
-------	--

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	67,715	68,449	733	1.1
セグメント間売上高	154	140	—	—
売上高合計	67,870	68,589	719	1.1
経常利益	5,022	5,862	839	16.7
調整後EBITDA	7,983	8,068	85	1.1

《遊技機事業》

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	11,049	17,532	6,483	58.7
セグメント間売上高	27	25	—	—
売上高合計	11,076	17,558	6,481	58.5
経常利益又は経常損失(△)	△3,632	2,858	6,490	—
調整後EBITDA	△2,884	3,684	6,569	—

《ゲーミング事業》

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	1,358	8,034	6,676	491.5
セグメント間売上高	—	—	—	—
売上高合計	1,358	8,034	6,676	491.5
経常利益又は経常損失(△)	180	△1,798	△1,978	—
調整後EBITDA	102	△946	△1,049	—

(2) 財政状態に関する説明

(資産及び負債)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ17,046百万円減少し、610,342百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ20,743百万円減少いたしました。これは、棚卸資産が増加した一方で、売上債権や現金及び預金が減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ3,696百万円増加いたしました。これは、製作出資に伴う出資金が増加したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ17,402百万円減少し、255,018百万円となりました。これは、未払法人税等や賞与引当金が減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ355百万円増加し、355,323百万円となりました。これは、配当金の支払いにより株主資本が減少した一方で、為替換算調整勘定が増加したほか、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したこと等によるものであります。なお、自己株式の消却により、資本剰余金及び自己株式がそれぞれ19,443百万円減少いたしました。

(財務比率)

当第1四半期連結会計期間末における流動比率は、前連結会計年度末に比べ44.1ポイント上昇し、387.4%となりました。また、当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.7ポイント上昇し、58.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年3月期通期連結業績予想については2026年5月12日に公表した内容から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	153,366	141,251
受取手形及び売掛金	67,576	49,023
有価証券	509	457
商品及び製品	14,051	16,673
仕掛品	78,486	89,557
原材料及び貯蔵品	18,454	18,856
その他	42,848	38,839
貸倒引当金	△581	△691
流動資産合計	374,711	353,968
固定資産		
有形固定資産		
土地	13,715	13,723
その他（純額）	37,348	37,471
有形固定資産合計	51,063	51,194
無形固定資産		
のれん	14,568	14,319
商標権	45,313	45,358
その他	20,229	19,907
無形固定資産合計	80,111	79,585
投資その他の資産		
投資有価証券	53,384	53,875
その他	68,242	71,813
貸倒引当金	△124	△94
投資その他の資産合計	121,502	125,594
固定資産合計	252,677	256,374
資産合計	627,388	610,342

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	17,448	19,700
短期借入金	7,500	7,500
未払法人税等	11,460	2,347
引当金	11,711	4,542
資産除去債務	25	25
その他	61,002	57,247
流動負債合計	109,147	91,362
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	124,500	124,500
引当金	2,518	3,038
退職給付に係る負債	5,247	5,462
資産除去債務	2,497	2,523
その他	18,509	18,131
固定負債合計	163,273	163,656
負債合計	272,420	255,018
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	29,819	10,146
利益剰余金	297,607	294,047
自己株式	△46,282	△26,042
株主資本合計	311,096	308,104
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,576	2,750
繰延ヘッジ損益	1,543	1,513
土地再評価差額金	△1,109	△1,109
為替換算調整勘定	37,950	41,693
退職給付に係る調整累計額	2,635	2,337
その他の包括利益累計額合計	43,596	47,185
新株予約権	243	—
非支配株主持分	31	33
純資産合計	354,967	355,323
負債純資産合計	627,388	610,342

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	81,026	95,028
売上原価	46,868	51,700
売上総利益	34,158	43,327
販売費及び一般管理費	34,677	40,942
営業利益又は営業損失(△)	△519	2,384
営業外収益		
受取利息	666	828
受取配当金	88	91
持分法による投資利益	1,193	185
投資事業組合運用益	38	188
為替差益	—	420
その他	371	529
営業外収益合計	2,358	2,244
営業外費用		
支払利息	563	705
投資事業組合運用損	365	235
為替差損	2,912	—
その他	121	75
営業外費用合計	3,962	1,016
経常利益又は経常損失(△)	△2,124	3,612
特別利益		
固定資産売却益	0	6
投資有価証券売却益	18	—
新株予約権戻入益	—	149
その他	0	—
特別利益合計	19	155
特別損失		
固定資産売却損	0	0
減損損失	294	6
投資有価証券評価損	179	302
その他	—	19
特別損失合計	474	328
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,579	3,439
法人税、住民税及び事業税	161	2,205
法人税等調整額	646	△937
法人税等合計	808	1,268
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,387	2,171
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,387	2,169
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	1

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,249	174
繰延ヘッジ損益	△98	△30
為替換算調整勘定	5,450	3,629
退職給付に係る調整額	△54	△297
持分法適用会社に対する持分相当額	△261	113
その他の包括利益合計	6,285	3,589
四半期包括利益	2,897	5,760
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,897	5,759
非支配株主に係る四半期包括利益	0	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2026年3月31日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づく自己株式の消却を決議し、2026年4月24日付で自己株式7,684,100株を消却いたしました。これにより、当第1四半期連結会計期間において、資本剰余金及び自己株式がそれぞれ19,443百万円減少しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(表示方法の変更)

(四半期連結貸借対照表関係)

「支払手形及び買掛金」は、前連結会計年度及び当第1四半期連結会計期間ともに支払手形の残高がないため、「買掛金」に科目名を変更しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	エンタテインメント コンテンツ事業	遊技機事業	ゲーミング事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	67,715	11,049	1,358	80,123	902	81,026
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	154	27	—	181	△181	—
計	67,870	11,076	1,358	80,305	720	81,026
セグメント利益又は損失(△)	5,022	△3,632	180	1,571	△3,695	△2,124

(注) 1 外部顧客に対する売上高の調整額902百万円は、事業セグメントに帰属しない売上高であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△3,695百万円には、事業セグメントに帰属しない損失△119百万円、セグメント間取引消去72百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,648百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

ゲーミング事業セグメントにおいて、Stakelogic B.V.の株式取得に伴い、当第1四半期連結会計期間より、同社及びその子会社12社を連結の範囲に含めております。

この結果、ゲーミング事業セグメントにおいて、のれんが17,998百万円発生しております。なお、当該のれんは、暫定的な会計処理の確定の内容が反映されております。この暫定的な会計処理の確定に伴う、のれんは、金額の変動はありません。また、2026年3月期末において、当該のれんについて未償却残高の全額を減損損失として計上しております。

ゲーミング事業セグメントにおいて、GAN Limitedの株式取得に伴い、当第1四半期連結会計期間より、同社及びその子会社23社を連結の範囲に含めております。

この結果、ゲーミング事業セグメントにおいて、のれんが14,240百万円発生しております。なお、当該のれんは、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映されております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	エンタテインメン トコンテンツ事業	遊技機事業	ゲーミング事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	68,449	17,532	8,034	94,016	1,011	95,028
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	140	25	—	166	△166	—
計	68,589	17,558	8,034	94,182	845	95,028
セグメント利益又は損失(△)	5,862	2,858	△1,798	6,922	△3,309	3,612

- (注) 1 外部顧客に対する売上高の調整額1,011百万円は、事業セグメントに帰属しない売上高であります。
- 2 セグメント利益又は損失の調整額△3,309百万円には、事業セグメントに帰属しない損失△244百万円、セグメント間取引消去0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,065百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
- 3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	3,249百万円	4,413百万円
のれん償却額	770	443